

学 校 評 価 書

学校名 岡山市立岡山後楽館高等学校
校長 矢 吹 玲 子 印

1 自己評価

(1) 評価結果の特徴的なもの

- ・生徒向け授業アンケートにおいて、「授業の最初に、本時のめあてや学習内容などが示されていますか」「先生の説明や板書は分かりやすく、自分のためになりますか」「先生は生徒の質問にきちんと対応していますか」「先生は生徒の私語や居眠りなどを注意していますか」「授業に満足していますか(意欲や興味がもてますか)」の項目に対する肯定的な回答の割合が90%を超えた。(無回答を除く)
- ・岡山後楽館に関するアンケート(生徒)の「本校には他校にはない優れた特色がありますか」の項目に対する肯定的な回答の割合が前年度79.6%から本年度86.0%と上昇した。

(2) 分析・改善方策

- ・生徒向け授業アンケートの結果は、年間10回以上のICT研修や、教育委員会を招いての研修、共通テーマを持った公開授業の実践などの効果が出たものだと考える。
- ・岡山後楽館に関するアンケートについては、教育課程、学習環境、学校行事、二人担任制の導入など、本校特有の取組に対して肯定的な回答の割合が多かった。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員会の実施日とメンバー

実施日：令和4年3月2日実施

メンバー：地域関係者、学識経験者、保護者、NPO関係者、元保護者、校長等
(地域協働学校運営協議会を活用)

(2) 自己評価に対する学校関係者評価委員の評価

コロナ禍にあって学校の教育活動を心配していたが、岡山市の教育に関する総合調査の結果などを見ると、生徒が頑張っている様子が伝わってきたので安心した。また、現在岡山後楽館高校で実践している様々なことは継続させるべきであり、その効果はアンケートだけでなく、既に地域住民や小中学生からの評価にも現れてきている。

3 来年度の重点取組

※令和4年度教育課程編成表の「指導の重点」と関連付けて記入する。

- ・新学習指導要領で求められる資質能力の育成を目指し、指導と評価を一体化させ、確かな学力を身につける授業を研究する。
- ・地域課題に対する理解と、体験を重視した学習を通して、社会とのかかわりを認識させる。
- ・他者との協働活動を通じて、自他を尊重し、主体的に判断し行動できるように自立した個人を育成する。
- ・岡山後楽館高校の生徒の活動、取組及び教育の成果を、広く地域社会に知ってもらう手法を研究し、本校の魅力を発信する。